

第14回自民党 政務調査会 二輪車問題対策PT

7月1日(水)午後3時より自民党本部において「自民党政務調査会二輪車問題対策プロジェクトチームの第14回会合」が開催された。

冒頭、逢沢一郎 PT 座長より挨拶が行われた後、三原じゅん子 PT 事務局長の進行により開催された。

今回は、「二輪車ツーリングプランの報告（2019 二輪車ツーリングプランの総括、2020 二輪車ツーリングプランの実施案及び GoTo トラベル事業、」に対する国土交通省からの報告と質疑が行われた後、逢沢座長より「ETC 二輪車 休日・日帰り・定率ツーリングプラン」の提案が行われた。

逢沢一郎 PT 座長 挨拶

- コロナウイルス感染拡大と云うことを受けて外出自粛があり、例年春にはツーリングプランをスタートしていたが6月19日に移動制限の緩和と云う状態に至ったので政府の GoTo トラベルといい意味でコラボしながら今年のツーリングプランを是非成功に導いていきたい。
- このツーリングプランを始めて今年で4年目を迎えるが毎年改良を重ねて今日に至っている。今日は先ず役所の方から第4回目のツーリングプランの概要の説明について聞かせて頂いた後、新しいバイクの高速道路の活用について一つのプランを私の方から提示させて頂きたいと思っております。

1. 二輪車ツーリングプランの報告について

国土交通省道路局高速道路課並びに NEXCO 各社より次のような説明が述べられた。

- 昨年は首都圏、中京圏、関西圏、九州圏に加え北海道、四国において6エリア19コースで期間は4月26日から11月末で64,000件の利用があった。これは2018年より14,500件減少している。原因としては首都圏において6月～7月の休日においては晴天日が全くなく天候が悪かったためである。
- 利用状況は宿泊と日帰りの割合はほぼ同じの5割づつであり、7割の方がツーリングの頻度が増加し2年連続でツーリングプランを利用した方が5割となり利用の定着化が進んでいる。
- 2020年は北海道と首都圏のエリアを手直ししてコンパクトなエリア設定のライトユーザー向けプランを設定している。値引きは平均して35%程度である。
- 2020年ツーリングプランは7月下旬の梅雨明け頃からスタートさせたいと考えている。GoTo トラベル事業は宿泊や日帰りセットになった移動手

段についても支援していくので宿泊の予約とセットでツーリングプランを申し込んでいただいた方にも1/2の支援を行うことで準備をしていきたい。

各先生方と国交省とで次のような質疑応答が行われた。

➤ ツーリングプランと GoTo トラベルの申し込みとはどのように連携していくのか。

(回答) 宿泊の予約番号とツーリングプランの予約番号を紐づけしワンストップで行う。

➤ 2020 ツーリングプランのスタート時期を具体的に示してもらいたい。

(回答) 7月の三連休の23日頃で検討している。

➤ 日本海沿いや中国地方はなぜツーリングプランから除外されているのか。

(回答) 除外地域は二輪車の利用が少ないので適用すると価格が高くなる。

➤ 将来的に私たちが求めているような恒常的な値下げをする考えがあるのか、それともずっとツーリングプランなのかの方向性について明確に答えて頂きたい。

➤ ツーリングプランを3年やっているが、これはこれで新規利用者の方が6割いて良かったと思っている。しかし我々の目標は高速道路料金が普通車1に対して0.5であるので、その辺りを議論するためにこのツーリングプランのデータを集められるようにしないといけないと思うがこのプランから集計するデータをどのように活用するのか、或いは全くそんなことを考えずにやっているのか。軽自動車と二輪車が同じ高速料金だと云うことを前に資料を出して頂き説明されたが私たちは結局納得できなかった。ですからそのデータを基にして軽自動車と同じだったら同じと云うことを示してもらいたいし違うのであれば0.5掛にして欲しい。その辺り今後どういう方向性を持ってやっていくのかと云うことを教えてもらいたい。

➤ 我々の本来求めている二輪の高速道路料金の検証になっていくようなツーリングプランであるべきだと思う。

(回答) 本則の料金の車種間比率の見直しについては我々もよく重々承知している。この車種間の比率については二輪だけのことではなくて他の車種(大型車等)との相対的な比率で決まっているので二輪だけ一律に直ぐ見直すことについてはなかなか難しいと思っている。それが難しいのでツーリングプランと云う形でスタートし出来る限り5/8に近づ

けていき我々もこの中で色々なデータを取り進めていきたいと思っている。例えば、後程に提案がある定率のようなものやっていく可能性もあると思う。ツーリングプランも3年経過したのでデータを活用して利用実態がどうなのかを見ていける状態になっているのももう少し詳しい分析をしていきたい。私どもも高速道路を出来るだけ二輪の方に利用を頂きたいと云うのは同じ思いなので出来る限り実質 5/8 に近づくような取り組みを考えていきたい。

- 恒常的な高速道路料金引き下げへの基本的な資料としなくてはいけないのでこのツーリングプランをやって収支がどうだったのかを知りたい。利用台数についての報告はあったが収支金額についての報告がなかったので出して頂きたい

(回答) ここには資料としてはないが増減収で云うとほぼトントン位と云うところである。

- ツーリングプランが本当に良いと思っている所は2日、3日と云うコースになっていて宿泊利用者が多く地方創生に役立っていることである。来年は宿泊を伴う利用がしっかりと増えていくようなプランを出してもらいたいと思う。
- 二輪車の料金については安ければ安いに越したことはないが、他車種に跳ね返らないと云う形での検討をやってもらいたい。
- ツーリングプランの収支がトントンであるならば一番最初に私たちが料金の恒常的な値下げの提案をした時に200億円の減少だと云う話があったがやってみれば台数が増えてトントンであるならば役所の皆さんも恒常的な値下げについては前向きに考えてもらいたい。

2. ETC 二輪車 休日・日帰り・定率ツーリングプランについて

逢沢座長より次のような提案が述べられた。

- 登録車を10とすれば軽自動車は8そして国民的感情として二輪は5の10:8:5が国民的コンセンサスを得られる常識的な水準であろうという考え方を整理してもう何年にもなるがこの比率に時間がかかるのであれば新たなプランを提示したい。
- ETC 搭載二輪車を対象にして4月から11月の土日祝日に事前にインターネットでツーリング実施日を申し込むことにより平日料金の半額(現在の休日割引より更に3割引き)と云う「ETC 二輪車 休日・日帰り・定率ツーリングプラン」を二輪車PTに提案する。

最後に、逢沢一郎 PT 座長より本日の議論を次のように取り纏めた後、閉会となった。

- 料金区分の普通車 10、軽自動車 8、二輪車 5 の実現は必要である。しかし実現に時間がかかるなら実質的に 5/8 にどんな手段で近づけるのか詰めていきたい。
- 提案した「ETC 二輪車 休日・日帰り・定率ツーリングプラン」は ETC 搭載二輪車が対象となるので常識的には早く出来ると思う。国交省には具体的に検討をお願いしたい。

(PT 出席国会議員) 19 名 (敬称略: 順不同)

- ・座長 逢沢 一郎 (衆・岡山 1 区)
- ・座長代理 塩谷 立 (衆・静岡 8 区)
- ・幹事長 今村 雅弘 (衆・比例九州)
- ・事務局長 三原 じゅん子 (参・神奈川)
- ・事務局次長 宮澤 博行 (衆・静岡 3 区)
- ・幹事 黄川田 仁志 (衆・埼玉 3 区)、宮崎 政久 (衆・沖縄 2 区)、
河村 建夫 (衆・山口 3 区) 、金子 恭之 (衆・熊本 4 区)
左藤 章 (衆・大阪 2 区) 、寺田 稔 (衆・広島 5 区)
関 芳弘 (衆・兵庫 3 区) 、秋本 真利 (衆・千葉 9 区)
井林 辰憲 (衆・静岡 2 区) 、大岡 敏孝 (衆・滋賀 1 区)
山田 美樹 (衆・東京 1 区) 、上野 宏史 (衆・比例南関東)
大隈 和英 (衆・大阪 10 区)、
赤池 誠章 (参・比例)

(関係省庁)

経済産業省 製造産業局自動車課
国土交通省 道路局高速道路課
NEXCO NEXCO 東日本 管理事業本部
NEXCO 中日本 保全企画本部
NEXCO 西日本 保全サービス事業部

(二輪車団体)

日本自動車工業会
全国オートバイ協同組合連合会 (大村会長、石井専務理事)
オートバイ政治連盟 (吉田会長)